

# 第44回中央委員会アピール

第44回中央委員会は、いまだに新型コロナの感染拡大が終息しない中、オンラインを併用し開催され、2023年6月開催の第26回定期大会に向けた意思統一をはかる会議となった。

全日本年金者組合は、2022年6月の第43回中央委員会以降、コロナ禍の下、多様な要求運動、仲間づくり、裁判運動の各分野にわたり、旺盛な運動を進めてきた。

岸田内閣は国民生活に何らの希望や実益も与えないまま、「国葬」開催に走り、国民から見放され内閣が崩壊しつつある。統一協会問題は日本の民主主義にとって焦眉の課題となっている。岸田内閣の閣僚が短時日で次々に辞めざるを得ない状況に追い詰められ、もはや政権の機能さえ失っていることはだれの目にも明らかである。岸田首相の責任は重大である。直ちに総辞職し、国民に信を問うべきである。

ロシアのウクライナ侵略は終結の糸口も見つからないまま10か月が経とうとしている。プーチン大統領は核使用の可能性を示唆している。世界を核で脅迫することは断じて許すことができない。これを口実に、岸田政権は日本の「防衛体制の見直し・強化」とさらなる「日米同盟の強化」を狙いアメリカいなりの大軍拡路線にかじを切っている。

世界情勢に端を発した原油や材料費の値上げに加え、円安の影響で物価高騰は深刻な事態になり国民生活に大きな打撃を与えている。75歳以上の医療費窓口負担2倍化、介護保険の大改悪、何より年金削減などで高齢者の生活は危機に瀕している。

「年金引き下げ中止」の運動はこの秋から「物価高騰に見合う年金引きあげを」という「黄色い署名」となって列島を走った。多くの共感を呼び、署名が仲間づくりと結びついた。引き続き強化する。

年金裁判は最高裁へという重要な局面をむかえている。大法廷回付を要求する署名運動に取り組み、「最高裁勝利をめざす集い」は大きく成功した。さらに幅広い世論を形成し、法廷内外の力を結集して勝利をめざす。

秋の仲間づくりでは停滞傾向の続いた苦しい中で「黄色い署名」での対話や文化・レク・女性部の「楽しい活動」などを機に仲間が増えてきた。前進の芽を全国で共有しながら、さらなる高みを目指したい。

ジェンダー平等問題は早くから方針として掲げ取り組んできた。全労連でも「ジェンダー平等宣言」採択された。全国で方針に掲げ推進していこう。

会議ではこの間の多彩な活動を反映し、コロナ禍の先を見すえた活発な討論が行われた。

仲間づくりの課題では、一刻も早く最高時現勢を回復し、2023年6月の第26回大会までには「14万組織」をめざし奮闘しよう。

年金者組合は3600万日本高齢者の誇りと尊厳を守るために団結して前に進もう。

2022年12月12日

全日本年金者組合第44回中央委員会